



あそびの
まほう

ココラポ

ボランティア紹介リレー

第29回

今回は、『あそびのまほう』からの紹介で、『ココラポ』をご紹介します。

「ココラポ」とは？

ダウン症児家族が集まるおしゃべり広場です。妊娠中にお子様がダウン症と診断されたご家族や、ダウン症児を育てるご家族が早期に繋がることを目標とし、不安や悩みに寄り添います。

一宮市市民活動支援センターで、定期的集まりを開催している団体です。

主な活動は？

月に1度一宮市市民活動支援センターの会議室をお借りして集まりを開催します。通院・療育などの情報交換をしたり、今抱えてるお悩みの相談を聞いたり、お子様の成長を一緒に喜んだり、参加されるご家族に寄り添うことを一番に考えています。週末に開催する際はきょうだいさんも一緒に参加できる製作や、ミニゲーム等を企画し全員が楽しいと思えるようにしています。



活動を始めた経緯は？

私の第三子の息子が、5歳のダウン症児です。産後間もなくは、どのように育てたらいいのか不安でしたが、育てていくうちに「あれ？意外に普通じゃん」って思ったんです。息子を出産しSNSで同世代の親子と繋がり、お会いする中で私自身もちょっとずつ先輩になり、産後間もないご家族と繋がる機会も増えてきました。ちょうどその頃、名古屋市でダウン症児家族の集まりをやっていた友人に一宮市でもやらないかと誘われたことをきっかけに、ココラポを始めました。

活動のやりがいとは？

初めて参加されるときは皆さん緊張されたり、不安を抱えていらっしゃる方も多いですが、会場には生まれて間もないお子様から小学生の子もいます。少し大きいお子様を見て「うちもあんな風に大きくなれますか？」「歩けますか？」と聞かれ、「個人差はあるけど歩けますよ！大丈夫です！」と話していると、そんな日が楽しみだって笑顔になってもらえます。色んな悩みはありますが、同じ様な悩みで辛かった過去が、誰かの笑顔に繋がっていることが嬉しいです。



市民の皆様へひとこと

障害児(者)と言うと普通とは違う、特別だと思ってしまう方が多いのではないのでしょうか？世の中には沢山の障害があります。その中の『ダウン症』は発達もゆっくりです。支援が必要なことも多いですが、それは特別なことではないと思います。皆さんにも得意、不得意がある。それと同じだと私は考えます。一人ひとり特別でかけがえのない存在です。皆が少しでも生きやすくするためにはまず『知る』ということ。毎年3月21日は国連が定めた『世界ダウン症の日』です。2023年のテーマはWith Us Not For Us 「私たちのために、ではなく、わたしたちとともに」日本語のコピーはともに手をたずさえて歩むイメージから「手をつなごう」「私たちのことを知ってね」となっています。

ご依頼などがあればお邪魔させていただきますので、ぜひこの子たちと触れ合って、正しく知っていただけたら嬉しいです。

おすすめ福祉の本

いろいろな いろいろな かぞくのほん



図書館で借りる
ことができます。

著者:メアリ・ホフマン 絵:ロス・アスフィス 訳:杉本 詠美 少年写真新聞社

昔の本に出てくる家族はたいてい同じだけど、実際の家族にはいろいろな形がある。家も、人数も、服も、食事も、性別も、趣味も気分も、それぞれ違う。どんな暮らし方をしても家族は家族。

どのページを開いてもいろいろな家族や暮らし方が発見できる。楽しいイラストを見ながら、多様性が分かる、そんな一冊です。